

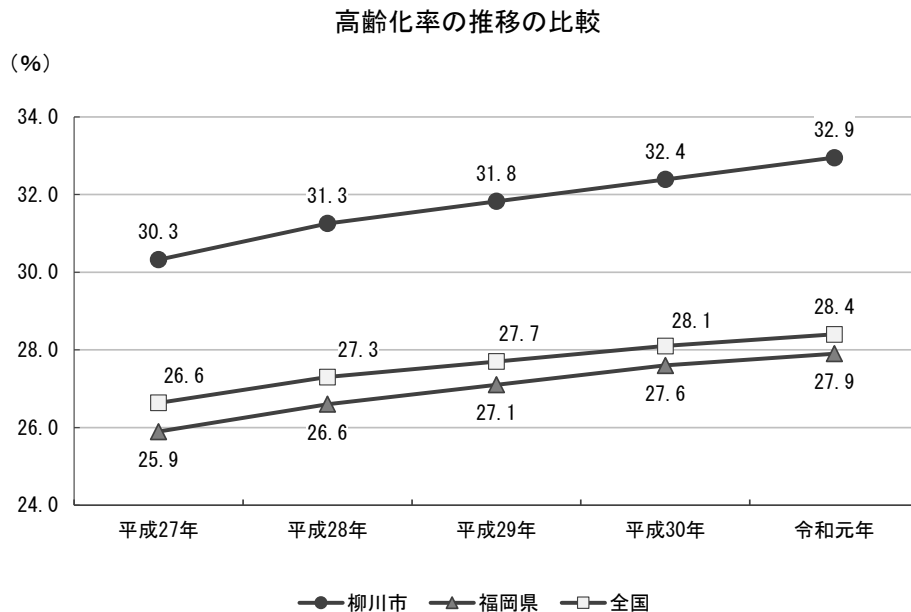
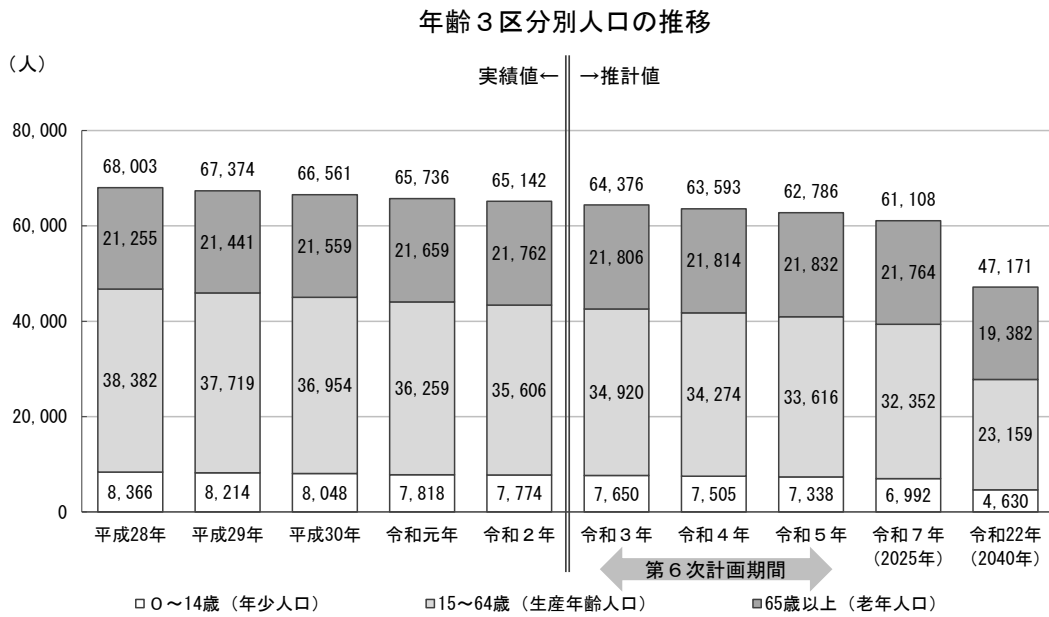
第2章 高齢者を取り巻く現状と将来推計

1 人口・世帯の状況

(1) 人口の状況

本市の総人口は減少傾向にあり、令和2年には65,142人となっています。年少人口と生産年齢人口は減少傾向にありますが、老年人口は増加が続いており、本計画の最終年度である令和5年まで増加が続く見込みとなっています。

本市の高齢化率は上昇傾向にあり、福岡県および全国の値と比較しても高い割合と言えます。

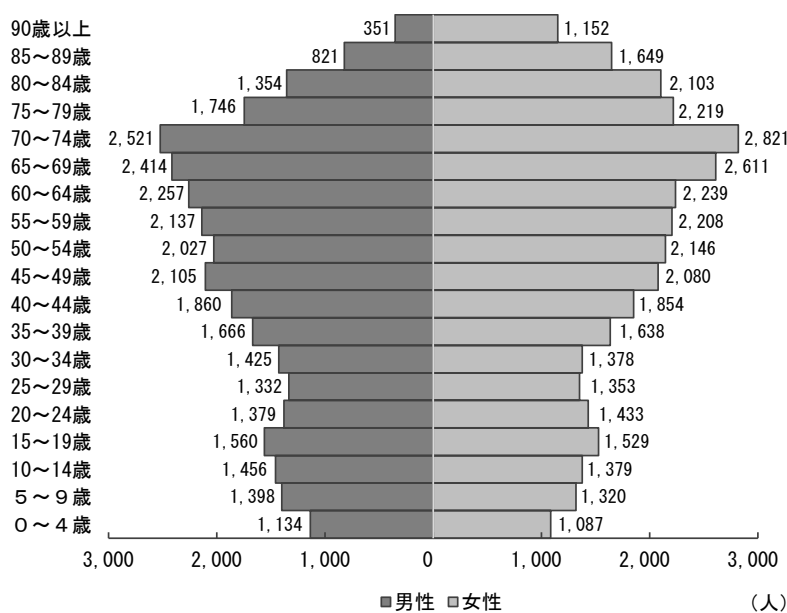


令和2年と令和7年の人口ピラミッドを比較すると、令和2年では男女ともに70～74歳が最も多くなっていますが、令和7年には、男性は70～74歳、女性は75～79歳がそれぞれ最も多くなっています。令和7年の65歳以上をみると、男性では75～79歳と85歳以上、女性では75～79歳と90歳以上の年齢層において、令和2年より多くなる見込みとなっています。

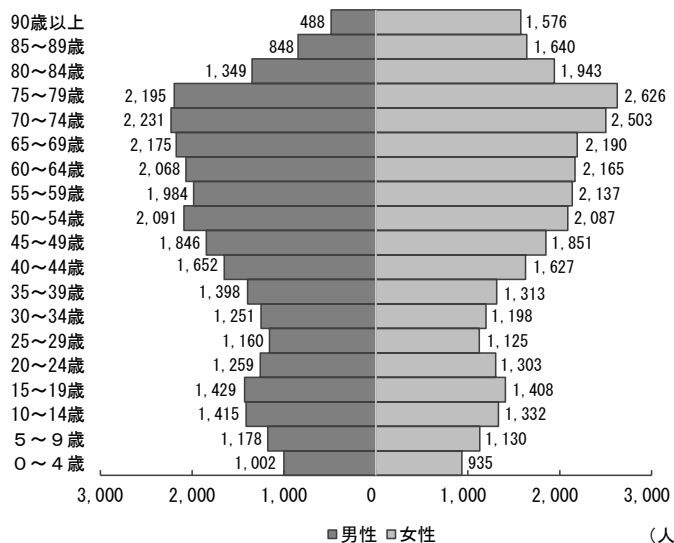
また、令和22年の人口ピラミッドをみると、男性では65～69歳、女性では90歳以上がそれぞれ最も高くなっており、令和7年と比較すると、男性では80歳以上、女性では90歳以上を除くすべての年齢層において減少する見込みとなっています。

人口ピラミッドの推移

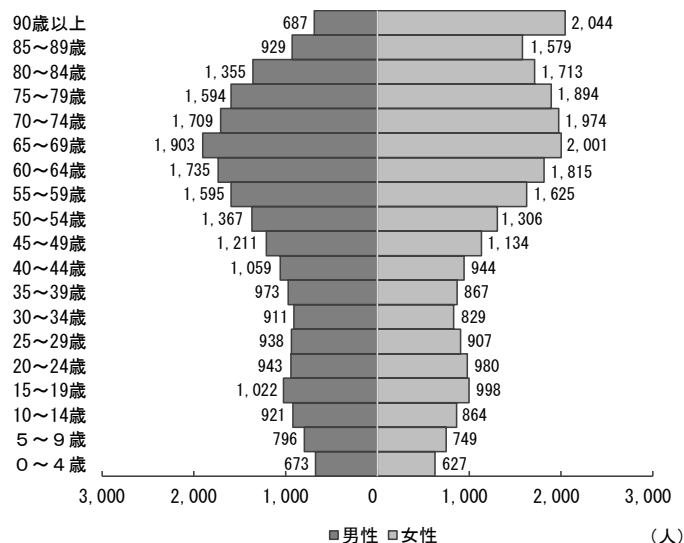
令和2年



令和7年



令和22年



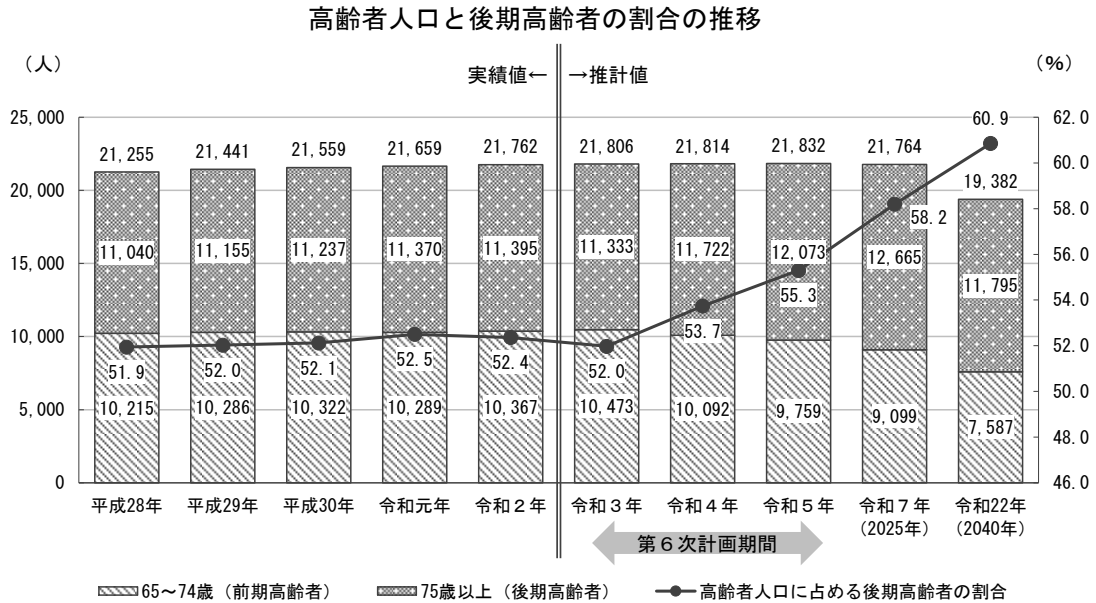
資料：実績値は住民基本台帳（各年9月末現在）、推計値はコーホート変化率法による

(2) 高齢者人口の見込み

本市の高齢者人口は、平成 28 年の 21,255 人から、令和 2 年には 21,762 人となり、507 人の増加がみられます。また、前期高齢者は多少の増減がありつつ、概ね増加傾向にあり、後期高齢者は一貫して増加が続いています。

令和 3 年以降の推計値をみると、前期高齢者は令和 4 年以降減少に転じ、後期高齢者は令和 7 年まで増加が続く見込みとなっています。

高齢者人口に占める後期高齢者の割合は概ね横ばいで推移していますが、令和 4 年以降は上昇が続き、令和 22 年には 60%を超える見込みとなっています。



資料：実績値は住民基本台帳（各年9月末現在）、推計値はコーホート変化率法による

(3) 高齢者世帯の状況

本市の高齢者のいる世帯は、一般世帯、核家族世帯、単独世帯のいずれにおいても増加しており、高齢者のいる世帯の増加および小規模化が進行している様子がうかがえます。

世帯構成の推移

	平成 22 年	平成 27 年
一般世帯総数	27,552 世帯	27,915 世帯
高齢者のいる世帯	12,365 世帯	13,187 世帯
一般世帯に占める構成比	53.1%	56.4%
核家族世帯	15,347 世帯	15,741 世帯
高齢者夫婦のみ	1,877 世帯	2,588 世帯
核家族世帯に占める構成比	12.2%	16.4%
単独世帯	5,847 世帯	6,563 世帯
高齢者ひとり暮らし	1,347 世帯	1,908 世帯
単独世帯に占める構成比	23.0%	29.1%

注：一般世帯総数は世帯の家族類型「不詳」を含みます。
資料：国勢調査

2 認知症高齢者の状況

令和2年12月1日現在で、本市の要介護（要支援）認定者のうち、認定調査員の調査結果による認知症高齢者の日常生活自立度がⅡ以上の高齢者は54.6%にのぼり、これは本市の65歳以上の高齢者の約10%にあたります。なお、介護保険未認定者などを加えると実際の認知症高齢者数はこれよりも多いと考えられます。

日常生活自立度別認定者数

	現在（令和2年12月1日現在）	推計（令和7年）
総数	3,972人	4,162人
自立	758人	795人
Ⅰ	877人	919人
Ⅱ a	627人	657人
Ⅱ b	771人	808人
Ⅲ a	595人	623人
Ⅲ b	64人	67人
Ⅳ	111人	116人
不明	169人	177人

資料：福岡県介護保険広域連合より

認知症高齢者の日常生活自立度判定基準

レベル	判定基準	みられる症状・行動の例
自立	認知症なし	特になし
Ⅰ	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内および社会的にほぼ自立している。	軽度の物忘れがありますが、火の不始末や薬の飲み忘れはみられず、家族や支援をする人がいれば日常で困ることはほとんどない状態
Ⅱ a	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭外で多少みられても、誰かが注意していれば自立できる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等
Ⅱ b	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭内で多少みられても、誰かが注意していれば自立できる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などひとりで留守番ができない等
Ⅲ a	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが日中を中心としてみられ、介護を必要とする。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、外出中に行方不明になる、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等
Ⅲ b	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが夜間を中心としてみられ、介護を必要とする。	ランクⅢ aに同じ
Ⅳ	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁にみられ、常に介護を必要とする。	ランクⅢに同じ
M	著しい精神症状や周辺症状あるいは重篤な身体疾患がみられ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等

資料：厚生労働省「認知症高齢者の日常生活自立度」を基に作成

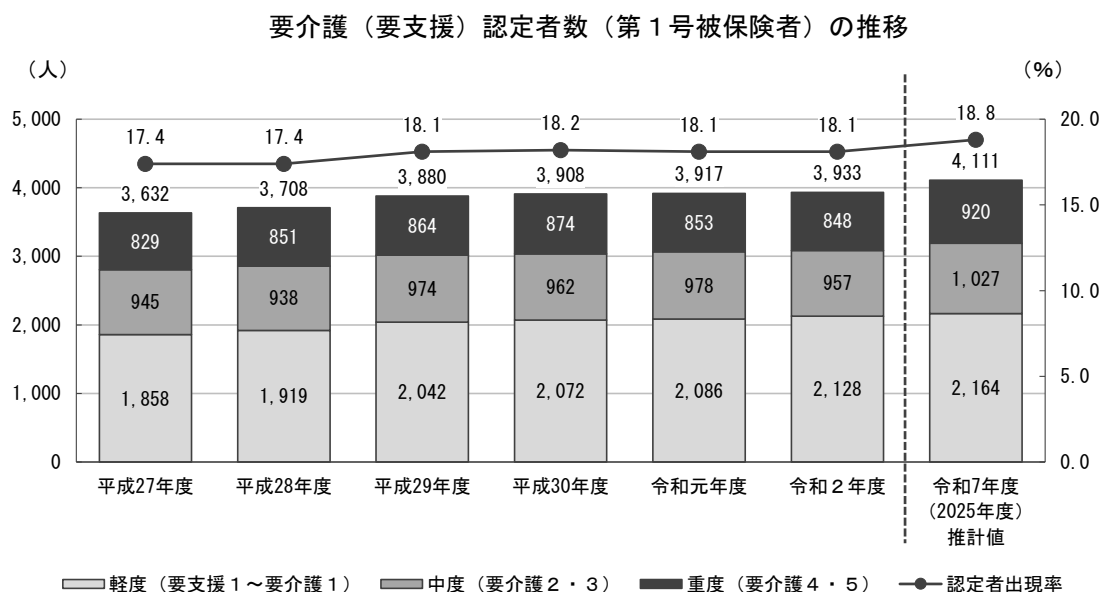
3 要介護（要支援）認定者の状況

(1) 要介護（要支援）認定者数の推移

本市の要介護（要支援）認定者数（第1号被保険者）は増加が続いており、令和2年度には3,933人となっています。また、令和7年度には4,111人にまで増加する推計となっています。

認定者出現率は、平成29年度から約18%で推移していますが、令和7年度には18.8%にまで上昇する見込みです。

要介護度別にみると、平成27年度から平成29年度にかけて軽度（要支援1～要介護1）の増加が顕著となっていますが、平成29年度以降はいずれも概ね横ばいで推移しています。

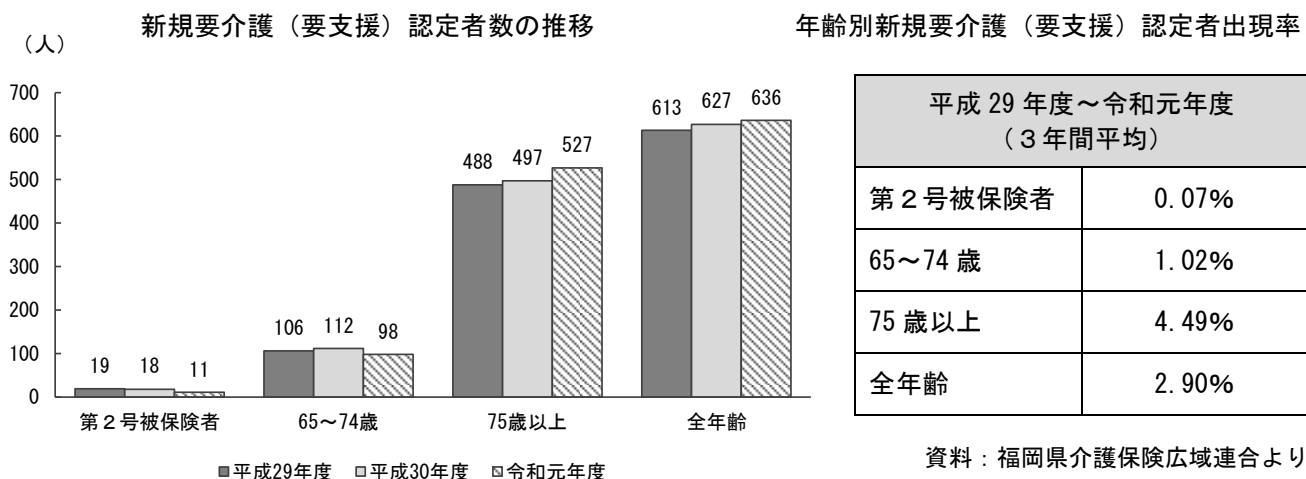


資料：福岡県介護保険広域連合より
平成27年度～令和2年度は9月末現在、令和7年度は推計値

(2) 年齢別新規要介護（要支援）認定者の状況

平成29年度から令和元年度までの3年間に、新たに要支援・要介護認定を受けた1,876名を分析したところ、75歳以上と全年齢は増加傾向にあります。第2号被保険者と65～74歳は減少がみられます。

年齢別新規要介護（要支援）認定者出現率をみると、年齢が上がるにつれて高くなっています。



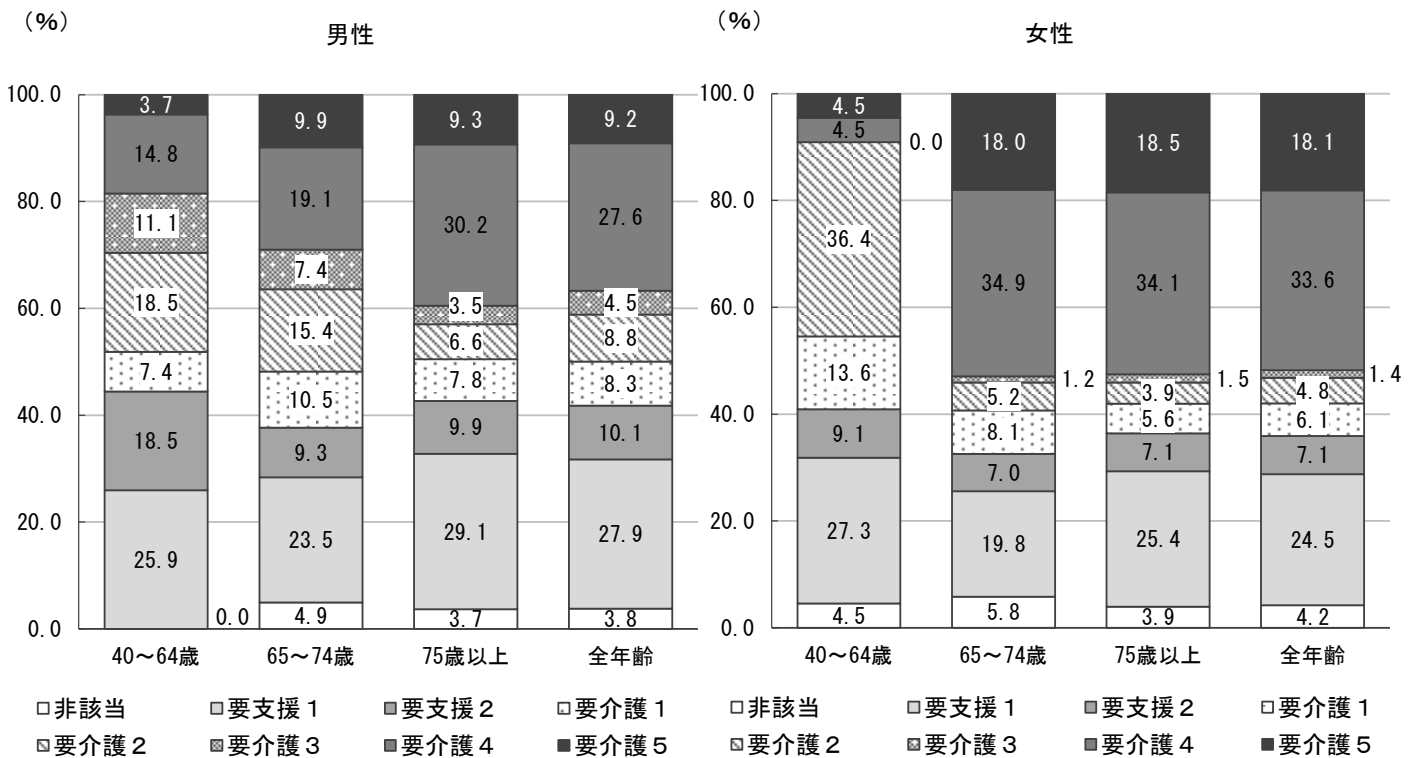
(3) 性別・介護度別新規要介護（要支援）認定者の状況

平成 29 年度から令和元年度までの3年間に、新たに要支援・要介護認定を受けた 1,876 名を分析したところ、40 歳から 64 歳の年齢層においては、男性は要支援 1、女性は要介護 2 が最も多くなっています。また、65 歳から 74 歳の前期高齢者においては、男性は要支援 1、女性は要介護 4 が最も多く、75 歳以上の後期高齢者においては、男女ともに要介護 4 が最も多くなっています。

新規要介護（要支援）認定者介護度別構成比（平成 29 年度～令和元年度）

H29～ R元	男				女			
	40～64 歳	65～74 歳	75歳 以上	全年齢	40～64 歳	65～74 歳	75歳 以上	全年齢
非該当	0.0%	4.9%	3.7%	3.8%	4.5%	5.8%	3.9%	4.2%
要支援 1	25.9%	23.5%	29.1%	27.9%	27.3%	19.8%	25.4%	24.5%
要支援 2	18.5%	9.3%	9.9%	10.1%	9.1%	7.0%	7.1%	7.1%
要介護 1	7.4%	10.5%	7.8%	8.3%	13.6%	8.1%	5.6%	6.1%
要介護 2	18.5%	15.4%	6.6%	8.8%	36.4%	5.2%	3.9%	4.8%
要介護 3	11.1%	7.4%	3.5%	4.5%	0.0%	1.2%	1.5%	1.4%
要介護 4	14.8%	19.1%	30.2%	27.6%	4.5%	34.9%	34.1%	33.6%
要介護 5	3.7%	9.9%	9.3%	9.2%	4.5%	18.0%	18.5%	18.1%

新規要介護（要支援）認定者介護度別構成比（平成 29 年度～令和元年度）

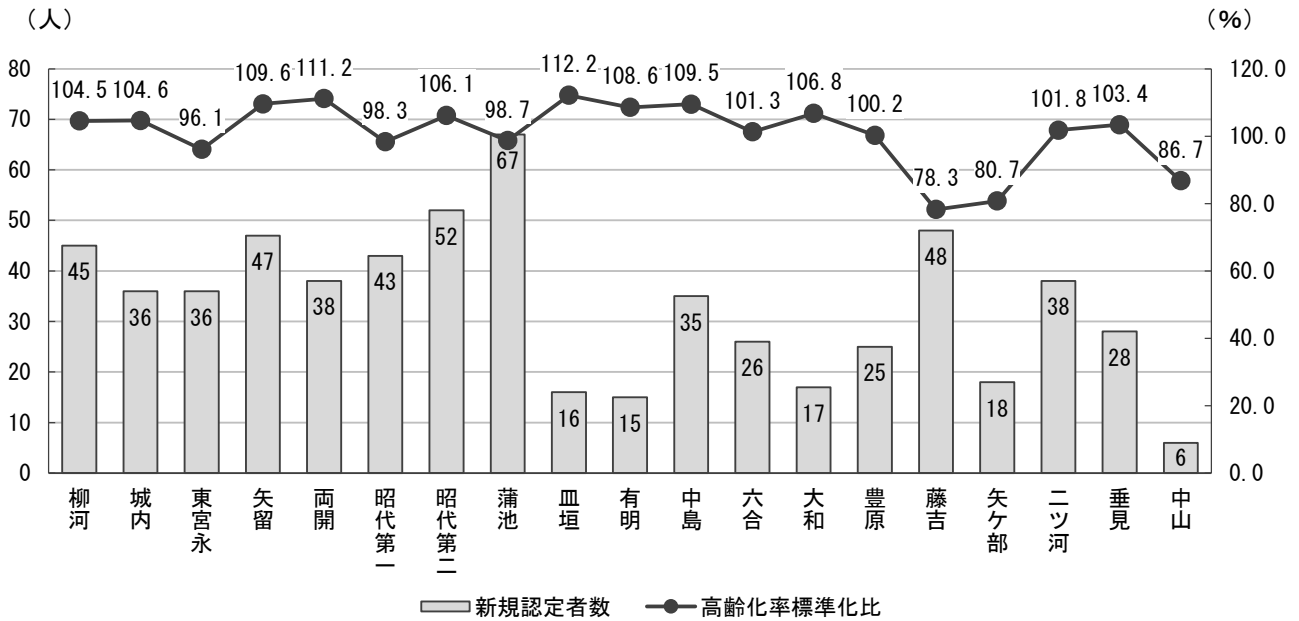


資料：福岡県介護保険広域連合より

(4) 地区別新規要介護（要支援）認定者数の状況

令和元年度の65歳以上の新規要介護（要支援）認定者数の状況を地区ごとにみると、蒲池、昭代第二、藤吉、矢留、柳河、昭代第一の校区の順に多いことがわかりました。地区ごとの人口規模の違いを考慮する必要がありますが、新規での要介護（要支援）認定者数の多い地区においては、市民と行政が一体となって、介護予防教室や地域デイサービス、巡回型介護予防健診等の介護予防対策を重点的に周知・啓発し、参加を促進させる必要があります。

校区別新規認定者数比



単位：%、人

校区	柳河	城内	東宮永	矢留	両開	昭代第一	昭代第二	蒲池	皿垣	有明
高齢化率標準化比	104.5	104.6	96.1	109.6	111.2	98.3	106.1	98.7	112.2	108.6
新規認定者数	45	36	36	47	38	43	52	67	16	15
校区	中島	六合	大和	豊原	藤吉	矢ヶ部	二ツ河	垂見	中山	
高齢化率標準化比	109.5	101.3	106.8	100.2	78.3	80.7	101.8	103.4	86.7	
新規認定者数	35	26	17	25	48	18	38	28	6	

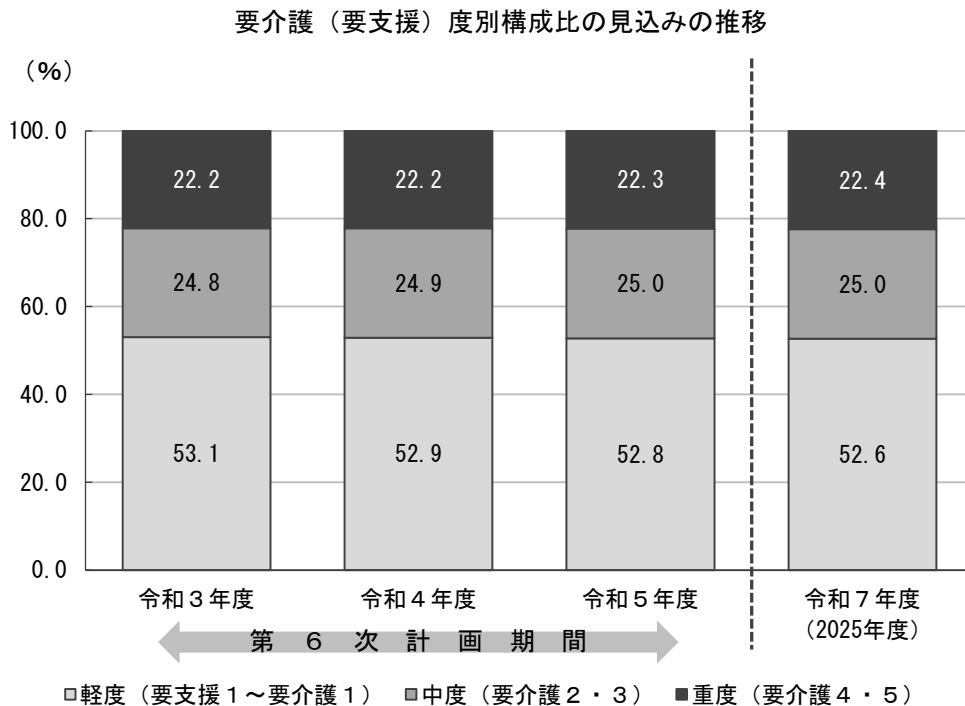
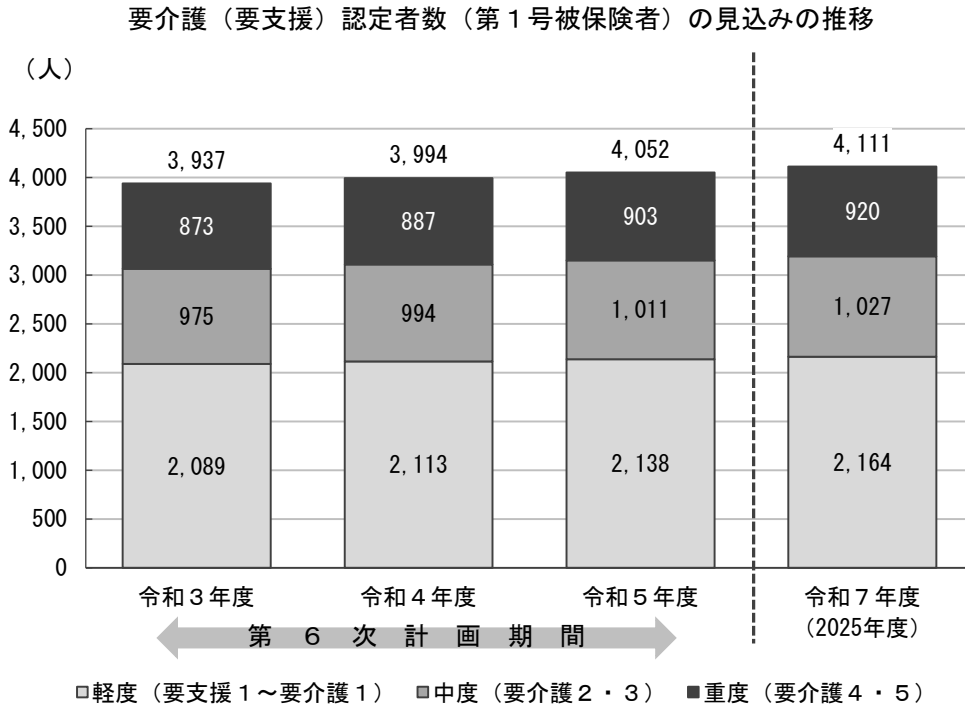
注：高齢化率標準化比は、令和元年度の全体の高齢化率 32.8%を 100 とした対比です。

資料：福岡県介護保険広域連合より

(5) 要介護（要支援）認定者数の見込み

福岡県介護保険広域連合による第8期介護保険事業計画期間（令和3年度～令和5年度）における本市の要介護（要支援）認定者数（第1号被保険者）の推計値は、以下のようになっています。令和7年度には、要介護（要支援）認定者数が4,111人に達すると見込まれています。

また、要介護度別の構成比をみると、軽度は減少していく見込みとなっている一方、中度と重度は増加していく見込みとなっています。



資料：福岡県介護保険広域連合より

4 アンケート調査結果の概要

(1) 調査の概要

本調査結果は、福岡県介護保険広域連合が令和元年度に65歳以上の要介護認定を受けていない方を対象として行った調査結果のうち、柳川市調査対象分を取りまとめたものです。

●回収状況

発送数	有効回収数	有効回収率	(参考) 広域連合全体の 有効回収率
6,886	3,185	46.3%	50.9%

(2) 回答者の基本属性

●性別

男性	女性
43.8%	56.2%

●年齢

65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	平均年齢 (歳)	(参考) 広域連合全体 の平均年齢 (歳)
34.5%	25.3%	19.5%	12.6%	8.1%	73.51	73.21

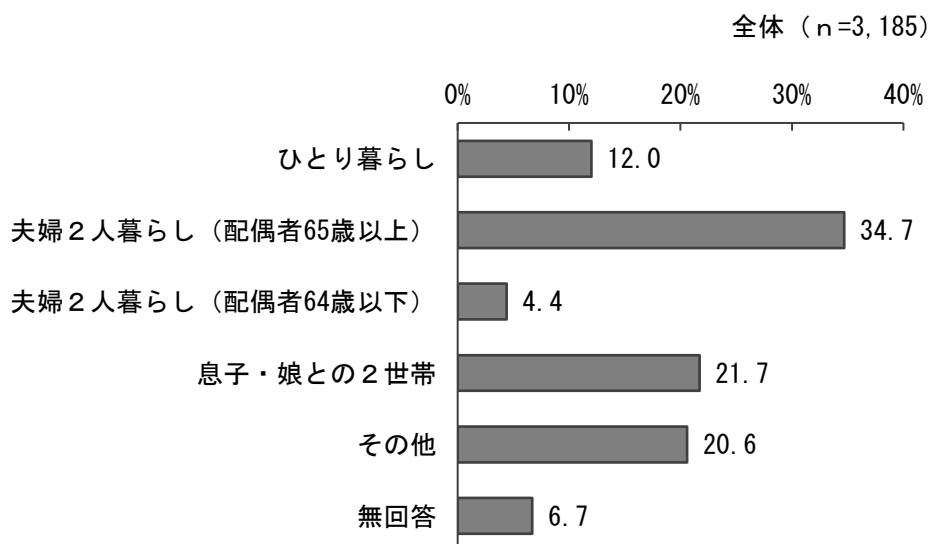
(3) 調査結果のみかた

- ・図表中の「n」は当該設問の回答者総数を表しており、百分率%は「n」を100%として算出しています。
- ・百分率%は、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記しているため、選択肢の割合の合計が100%にならない場合があります。
- ・複数回答の設問では、すべての比率の合計が100%を超えることがあります。
- ・選択肢の語句が長い場合、本文中および図表中では省略した表現を用いる場合があります。

(4) 調査結果の概要

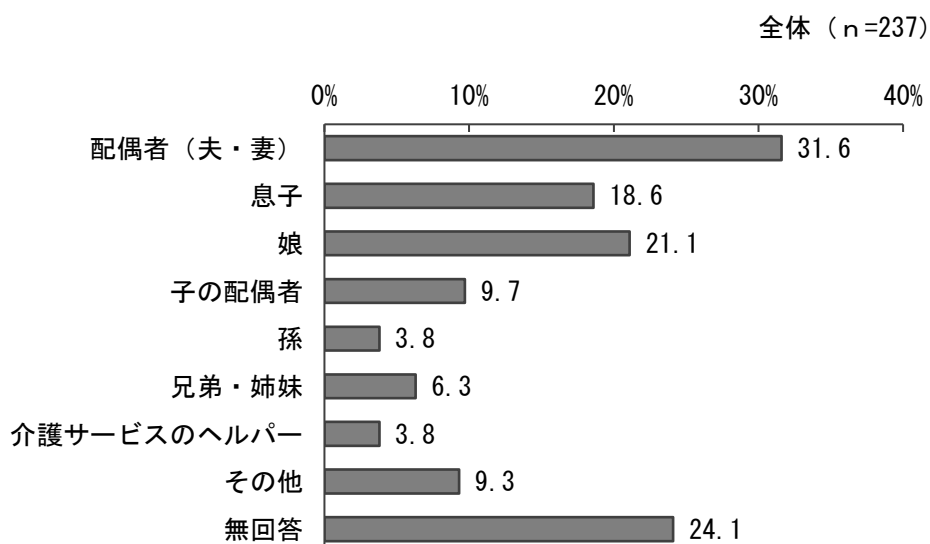
1. 家族構成について（単数回答）

家族構成については、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が34.7%と最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」が21.7%、「ひとり暮らし」が12.0%、「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」が4.4%となっています。



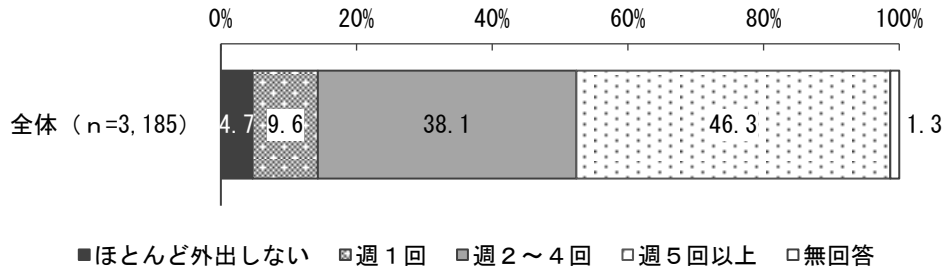
2. 主な介護者・介助者について（単数回答）

普段の生活で介護・介助を必要としている方に、主な介護者・介助者について尋ねたところ、「配偶者（夫・妻）」が31.6%と最も高く、次いで「娘」が21.1%、「息子」が18.6%となっています。



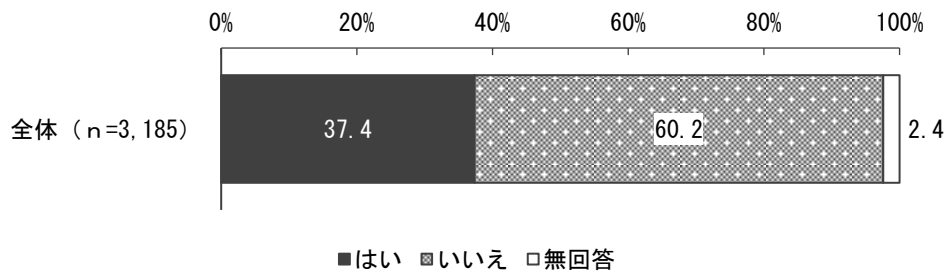
3. 外出の状況について（単数回答）

1週間あたりの外出頻度については、「週5回以上」が46.3%と最も高く、次いで「週2～4回」が38.1%となっています。また、「ほとんど外出しない」と「週1回」を合わせた『週1回以下』の割合は、14.3%となっています。



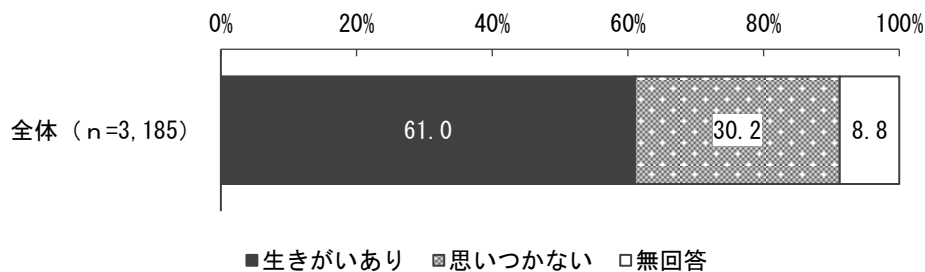
4. 物忘れについて（単数回答）

物忘れが多いと感じるかという問いに対し、「はい」と回答した方の割合は37.4%、「いいえ」と回答した方の割合は60.2%となっています。



5. 生きがいの有無（単数回答）

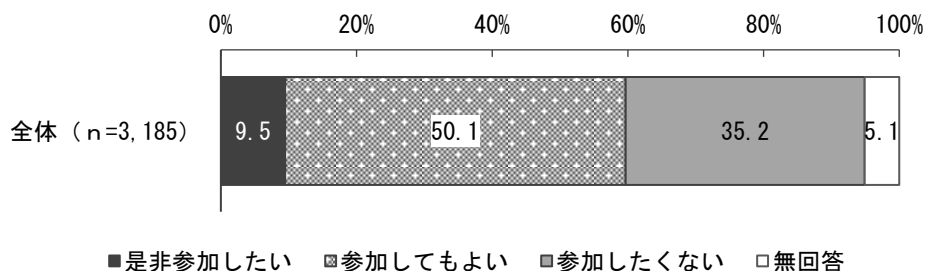
生きがいの有無については、「生きがいあり」が61.0%、「思いつかない」が30.2%となっています。



6. 地域での活動について（単数回答）

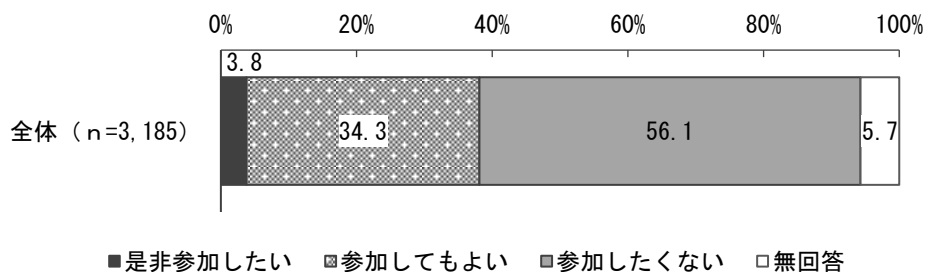
○健康づくり活動や趣味等のグループ活動の「参加者」としての参加意向

地域住民の有志による活動の「参加者」としての参加意向については、「参加してもよい」が50.1%と最も高く、次いで「参加したくない」が35.2%、「是非参加したい」が9.5%となっています。「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた割合は、59.6%となっています。



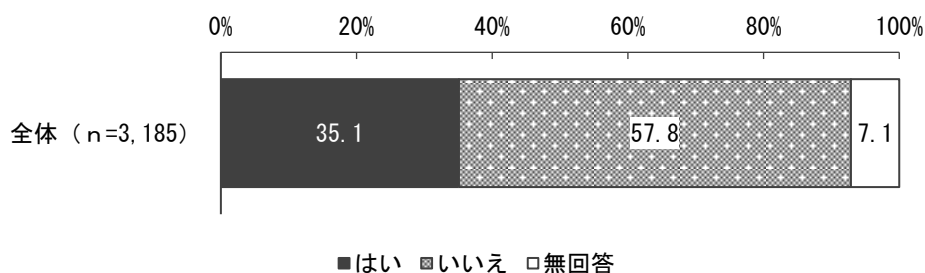
○健康づくり活動や趣味等のグループ活動の「企画・運営（お世話役）」としての参加意向

地域住民の有志による活動の「企画・運営（お世話役）」としての参加意向については、「参加したくない」が56.1%と最も高く、次いで「参加してもよい」が34.3%、「是非参加したい」が3.8%となっています。「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた割合は、38.1%となっています。



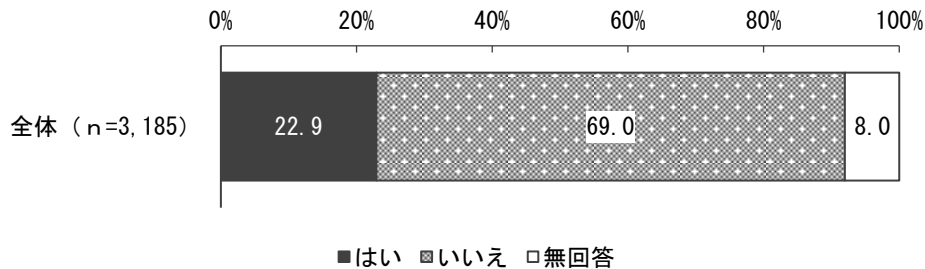
7. 気分が沈むことの有無（単数回答）

この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかという問いに対し、「はい」と回答した方の割合は35.1%、「いいえ」と回答した方の割合は57.8%となっています。



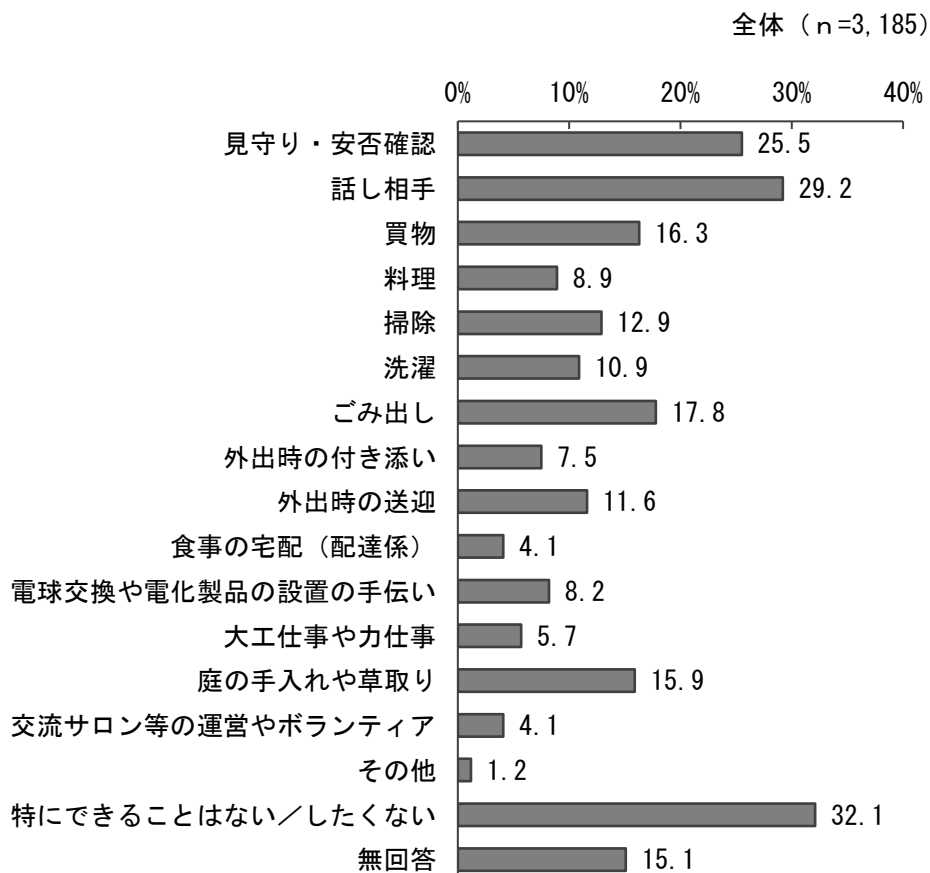
8. 物事に対する興味の有無（単数回答）

この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくあったかという問いに対し、「はい」と回答した方の割合は22.9%、「いいえ」と回答した方の割合は69.0%となっています。



9. ボランティア活動について（複数回答）

高齢者同士で日常生活の支え合いを行う生活支援ボランティアとしてできると思うものについては、「特にできることはない／したくない」が32.1%と最も高くなっています。それ以外では、「話し相手」が29.2%と最も高く、次いで「見守り・安否確認」が25.5%、「ごみ出し」が17.8%、「買物」が16.3%、「庭の手入れや草取り」が15.9%となっています。



(5) アンケート調査結果からみえる課題

◆安心につながる体制づくり

家族構成についてみると、「ひとり暮らし」が12.0%、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が34.7%となっています。今後、高齢化の進行にともない、高齢者の単身世帯や、夫婦ともに高齢者の世帯はますます増えていくことが予測されます。また、生活支援ボランティアとしてできると思われることについては、「話し相手」が29.2%、「見守り・安否確認」が25.5%で比較的高くなっています。

ひとり暮らし高齢者の方ではもとより、日中ひとりとなる高齢者の身体状態の重度化も想定されることから、そうした方々の状況の把握に努めるとともに、地域での声かけ活動の推進や見守り体制の充実が重要となります。一方、現在のコロナ禍においては、感染症対策を徹底しつつ、高齢者の安心につながるサービスをいかに維持・継続していくかが課題となっています。

◆認知症施策の推進

主な介護者・介助者については、「配偶者(夫・妻)」が31.6%と最も高くなっており、家族構成とあわせてみると、本市においても要介護者と介護者がともに高齢者である「老老介護世帯」が一定割合存在していることがうかがえます。また、物忘れについて、「はい(多いと感じる)」と回答した方の割合が4割程度となっています。このことから、認知機能に低下のみられる、認知症リスク高齢者が少なからず存在し、今後、認知症の要介護者を認知症の介護者が介護している「認認介護世帯」も増えていくことも予測されます。

認知症は誰もがなりうる身近なものであるため、認知症に対する理解を深めるための啓発活動に取り組むとともに、相談・支援体制の充実にも努めなければなりません。さらに、運動不足の改善や、社会参加による社会的孤立の解消、役割の保持等が認知症の発症を遅らせることができる可能性が示唆されています。外出頻度が『週1回以下』の方の割合は14.3%となっており、高齢者の閉じこもり傾向は、コロナ禍の影響によりますます進んでいくものと予想されるため、心身の健康の維持と意識づけをより一層促進する必要があります。こうした取り組みは、フレイルの予防やうつ傾向の改善にもつながると考えられます。

◆高齢者の生きがいづくりと社会参加の促進

地域住民の有志による活動の「参加者」としての参加意向についてみると、「是非参加したい」と「参加してもよい」の割合の合計は59.6%となっています。また、「企画・運営(お世話役)」としての参加意向についてみると、「是非参加したい」と「参加してもよい」の割合の合計は38.1%となっています。このことから、本市には住民有志の活動に対して意欲的な高齢者が一定割合存在していることがわかります。

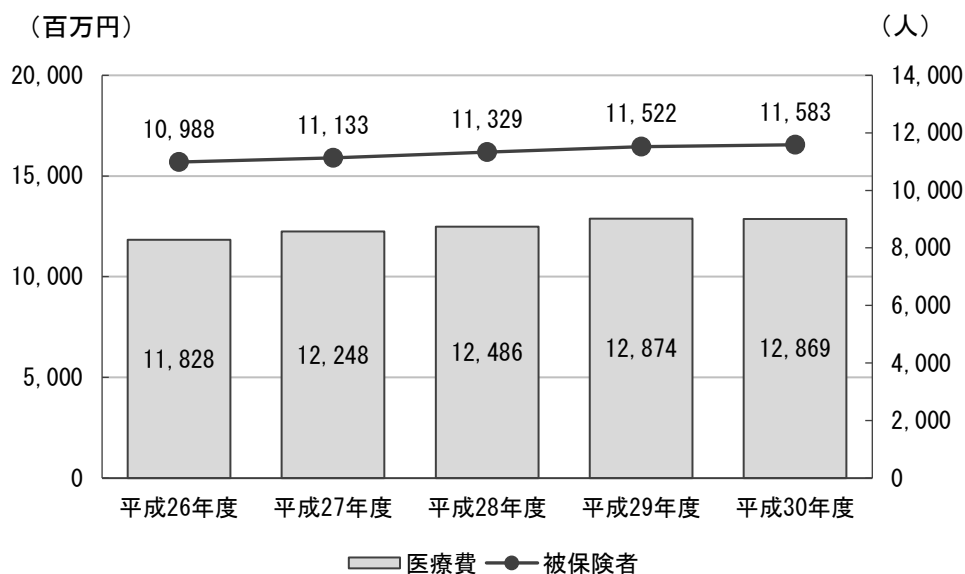
今後は、いかにこうした方々と地域活動を活性化していき、地域のつながりを強くしていくかが課題であり、また、このような取り組みは、高齢者の生きがいの創出につながると考えられます。さらに、高齢者がいつまでも元気で暮らし続けるためには、高齢者自身が生活機能の低下の予防に取り組むことはもとより、自立した生活を送ることが重要です。そのため、高齢者一人ひとりが自らの経験や能力を活かすことのできる環境づくりや、就労的活動の支援など、高齢者がいきいきと活躍できるまちづくりに努める必要があります。

5 後期高齢者医療の動向

本市における75歳以上の高齢者を対象とした後期高齢者医療費・被保険者の推移は以下のようになっています。平成30年度の後期高齢者医療費は128億6,900万円、被保険者数は11,583人と増加傾向となっています。

また、本市の1人あたりの後期高齢者医療費をみると、平成30年度は1,111,017円で、平成29年度に比べて減少しており、福岡県平均より低くなっていますが、全国平均よりは高い水準となっています。

後期高齢者医療費・医療被保険者数の推移



単位：百万円、人

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
医療費	11,828	12,248	12,486	12,874	12,869
被保険者	10,988	11,133	11,329	11,522	11,583

資料：福岡県国民健康保険団体連合会より

1人あたりの後期高齢者医療費の推移

単位：円

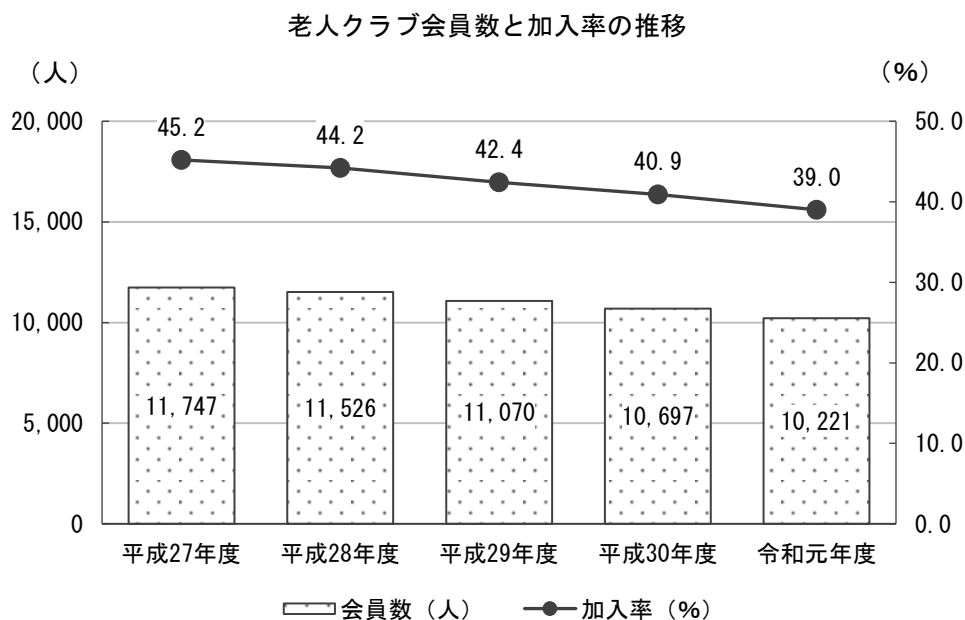
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
柳川市	1,076,500	1,100,210	1,102,190	1,117,377	1,111,017
福岡県平均	1,181,862	1,195,497	1,169,478	1,176,856	1,178,616
全国平均	932,290	949,070	934,547	944,561	943,082

資料：厚生労働省「後期高齢者医療事業年報」より

6 社会参加・生きがいの状況

(1) 老人クラブ

本市における老人クラブ会員数をみると、年々減少しています。また、加入率についても、減少している状況です。



単位：人、%、クラブ

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
会員数	11,747	11,526	11,070	10,697	10,221
加入率	45.2	44.2	42.4	40.9	39.0
単位老人クラブ数	185	182	177	175	172

注：各年度 3 月末現在
資料：柳川市老人クラブ連合会より

老人クラブの活動状況

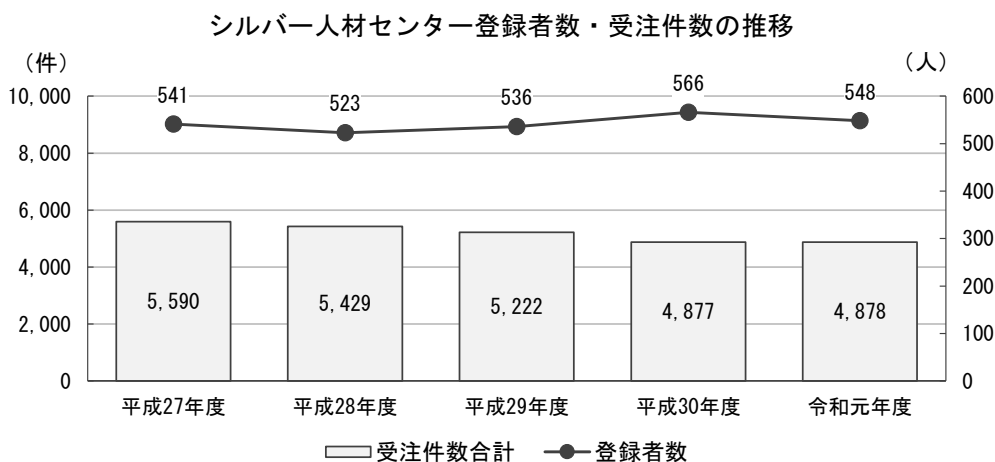
	活動内容
友愛活動	虚弱高齢者へ訪問・支援
社会奉仕活動	公民館、道路などの清掃・空き缶拾い
防犯・交通安全活動	柳川警察署を招いて交通安全指導
交流活動	多世代交流 子どもに昔の遊びを教える
健康づくり事業	健康増進活動 ・健康づくり：3B体操、フラダンス、健康体操、社交ダンス ・スポーツ：グラウンドゴルフ、ゲートボール、ペタンク ・その他：高齢者料理教室、男性料理教室、健康講話、ふれあいサロン

資料：柳川市老人クラブ連合会より

(2) シルバー人材センター

本市におけるシルバー人材センターの登録者数は、増減を繰り返しながら推移しており、令和元年度は548人でした。受注件数は、概ね減少傾向にあります。

令和元年度の内訳では、「屋内外作業、草刈り、除草」が2,956件と、全体の6割を占めています。これに「大工、左官、塗装、植木剪定」が1,010件（20.7%）で続いています。



シルバー人材センターの希望職種別登録者数の推移

単位：人

業務	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
教育、経理事務、運転	46	45	47	45	50
大工、左官、塗装、植木剪定	90	85	81	79	75
整理事務、賞状・宛名書き	23	24	27	29	32
施設管理、受付管理	106	106	116	148	140
販売、集計、配達	7	8	6	5	4
屋内外作業、草刈り、除草	218	206	208	211	206
家庭内外作業、食事づくり	46	44	46	44	37
その他	5	5	5	5	4
合計	541	523	536	566	548

注：各年度3月末現在

資料：柳川市シルバー人材センターより

シルバー人材センターの受注件数の推移

単位：件

業務	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
教育、経理事務、運転	53	28	25	25	25
大工、左官、塗装、植木剪定	1,047	1,043	1,003	993	1,010
整理事務、賞状・宛名書き	45	38	34	41	37
施設管理、受付管理	316	314	276	276	265
販売、集計、配達	73	75	92	84	84
屋内外作業、草刈り、除草	3,433	3,372	3,308	3,005	2,956
家庭内外作業、食事づくり	623	559	484	453	501
その他	0	0	0	0	0
合計	5,590	5,429	5,222	4,877	4,878

資料：柳川市シルバー人材センターより